

2022年6月10日
世界自動車調査月報編集長 安藤 久史

世界自動車生産、2021年は推定8,055万台、2022年は再び8,000万台割れも

謹啓、時下益々ご清祥のこととお慶び申し上げます。
平素より、当社の調査・出版業務にご協力頂き、誠にありがとうございます。

さて、当社では『FOURIN 世界自動車調査月報』2022年6月号(2022年6月10日発刊)にて、「2021年の世界48ヵ国自動車生産台数」をテーマとしたレポートを取りまとめましたので、ご案内申し上げます。

- 2021年は前年比3.1%増の8,055万台と、2010年代初頭の水準と同等
- 米州、アジア、アフリカ・中近東が前年を上回ったが、欧州が前年に続き減少
- 2022年は半導体の供給不足が足枷となり、再び8,000万台を割り込む可能性

2021年の世界48ヵ国自動車生産台数(推定)を、FOURINが取りまとめたところ、前年比3.1%増の8,055万台となりました(各国自動車工業会およびそれに準ずる機関が発表するデータを基に、自動車メーカーベースで集計)。4年ぶりの回復となりましたが、新型コロナウイルス感染拡大以前の9,700万台前後の水準と比べると2割近く低く、2010年代初頭の水準と同等となっています。前年のような、感染防止のための行動制限による工場の一時的稼働停止や販売制限を実施した国は少なく、年半ばにかけて中国や米国などで旺盛な需要も戻っていましたが、世界的な半導体不足が足枷となり、回復は小幅に留まりました。

メーカー別では、トヨタグループ(Subaru含む)が同7.1%増の1,111万台となり、3年連続で首位となりました。コロナ以前から1,000万台超の規模を唯一維持しているメーカーとなっています。2位のVWグループは同8.7%減の817万台となり、直近のピーク(2017年の1,102万台)と比べると3割減となっています。

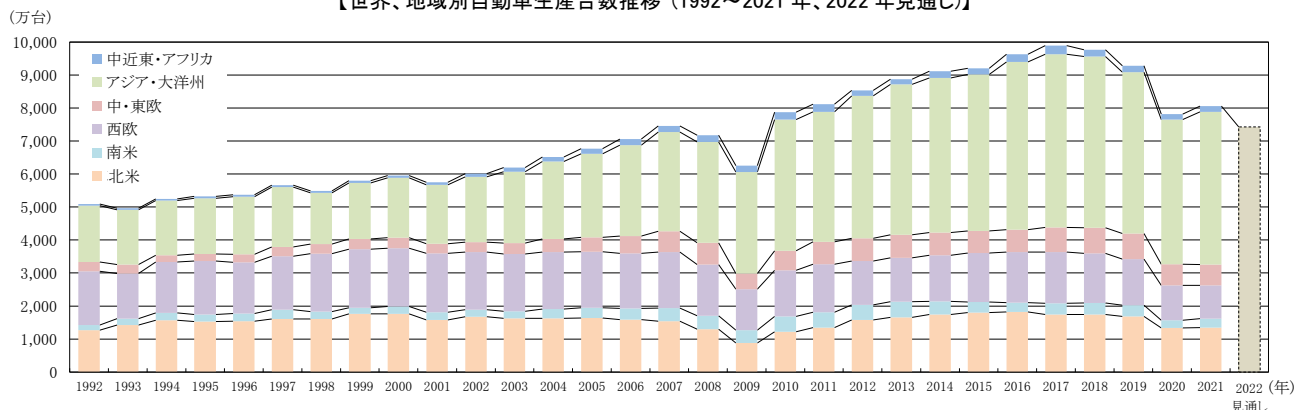
2022年は引き続き、半導体の供給不足が自動車生産規模回復の最大の足枷となっています。長ければ2023年まで影響が続くと見られており、楽観視はできない状況と言えます。加えて、2022年2月末から続いているロシアによるウクライナ侵攻が長期化する可能性が浮上。主要国・地域の1~3月期もしくは1~4月の生産実績を見ても欧州などでは影響が顕著で、2022年は再び8,000万台を割り込む可能性が高まっています。

ご参考までに、『FOURIN 世界自動車調査月報』2022年6月号に掲載しますグラフの一部を掲載します。今回のレポートでは、国別地域別メーカー別の詳細データを各種掲載しております。

当プレスリリース内容に関してのご不明な点やご質問は、『FOURIN 世界自動車調査月報』編集長の安藤(TEL:052-789-1143、FAX:052-789-0966、E-mail:h.ando@fourin.com)までご連絡ください。

敬 具

【世界、地域別自動車生産台数推移(1992~2021年、2022年見通し)】



注)2021年時点で生産データ取得可能な国は48ヵ国であるが、2020年までのデータには過去生産していた国を含む。(各国自工会データ及びそれに準ずる機関のデータよりFOURIN作成)